

平成 29 年 5 月 14 日実施

「家裁調査官補」

心理学分野

【模範答案】

第 1 問 心理学概論

J.ピアジェの認知発達理論の特徴について、「同化」と「調節」という概念に触れながら、400 字以内で説明せよ。

解答例:

ピアジェは、発達はある構造を持った段階からそれとは質的に異なる構造を持った次の段階へ不可逆的に進むという発達段階の考えに立ち、子どもの認知発達段階を理論化した。

彼は認知発達を均衡化、すなわち主体と環境の相互作用が均衡状態に達することにより説明した。主体と環境の相互作用には二つの過程があり、一つは同化である。これは主体が、既に持っているスキーマと呼ばれる認知様式を用いて環境を自ら取り入れる過程である。もう一つが調整で、これは主体が自らのスキーマを変化させて環境に適応する過程である。この二つの過程が補い合い、均衡化が生じることで発達が進んでいく。

ピアジェはこの均衡化の結果として発達段階が形成されると考え、認知発達を大きく 4 段階に分けた。誕生から 2 歳頃までは感覚運動期、2 歳頃から 6、7 歳までは前操作期、6、7 歳から 11、12 歳までは具体的操作期、それ以降を形式的操作期となづけた。(390 字)

第 2 問 臨床心理学

心理学的アセスメントについて、定義や技法に触れながら、400 字以内で簡潔に説明せよ。

解答例:

心理学的アセスメントとは、臨床心理学的な援助を必要とする事例について、そのパーソナリティおよび心理的問題の規定因に関する情報を系統的に収集・分析し、その結果を総合して事例への介入方針を決定するための作業仮説を生成する過程である。また異常性や病理のみならず、健康的な側面や可能性にも着目するところが特徴である。

技法として、観察法、面接法、検査法が挙げられる。観察法とは、行動から情報を得ることであり、子どもが対象となることが多い。面接法は、対面して会話をし情報を得ることであるが、単に話の内容のみではなく、話し方や表情など非言語的情報にも留意することが求められる。検査法とは、課題の遂行結果から情報を得るであり、質問紙検査、投映法検査、作業検査等を目的に応じて組み合わせる。いずれの方法を用いる際にも、対象者と十分にラポールをとり、落ち着いた環境で実施することが重要である。(389 字)

引用文献：心理臨床大事典(培風館)

第 3 問 社会心理学

自己開示(self-disclosure)について、その機能に触れながら、400 字以内で簡潔に説明せよ。

解答例:

自己開示とは、自己の個人的な情報を、言語を通じて他者に知らせる過程である。自己開示の機能として、主なものを 3 つ挙げる。

第一に、自己評価が正確になることである。特定の他者に自己開示をすることにより、相手も自己開示を返したり、なんらかのフィードバックをしてくれる。これによって、自己と他者を比較することなどを通じて自己評価を正確に行うことができるようになる。

第二に、対人関係の深化である。特定の他者に自己開示をすると、返報性によって相手からも同程度に自己開示が得られる。これが相互に繰り返されることで、自己開示の程度が深まると同時に、関係性も深まっていく。

第三に、精神的健康の維持・向上である。一般に自己開示量が多いほど精神的に健康であることが知られている。単に他者に開示するというだけではなく、ネガティブな経験を筆記によって開示することが精神的健康に効果的であることが実証されている。(391 字)

引用文献：誠信心理学辞典新版，大平英樹 感情心理学入門 有斐閣アルマ

第 11 問 教育心理学

学習の転移について、具体例を挙げながら、400 字以内で簡潔に説明せよ。

解答例：

先行学習が後続学習に影響を及ぼすことを学習の転移という。先行学習が後続学習を促進する場合は正の転移、妨害する場合は負の転移と呼ぶ。たとえば、幼少時にバレエを習っていると後に新体操を習う際に上達が早くなることは正の転移であり、軟式テニスで身につけた手首のひねりのせいで後に硬式テニスを習う際にうまくラケットを扱えないのは負の転移である。

正の転移は、類似した刺激事態への反応として類似または同一の運動を含むときに最も表れやすく、負の転移は、類似した刺激事態に対して拮抗的または両立不可能な反応が求められるときに最も表れやすいということが指摘されている。

また、知覚運動学習において、片側の手や足で練習した効果が、反対側の手や足にも転移することを両側性転移という。両側性転移の現象は、運動学習が単に筋肉運動に固有の事象ではなく、脳機能と関連することを示している。(377 字)

引用文献：有斐閣心理学辞典，メイザー・磯他訳 メイザーの学習と行動日本語版第 3 版 二瓶社